

令和6年度 数学科 授業改善推進プラン

大田区立出雲中学校

1 昨年度の授業改善推進プランの検証

(1) 成果

- ・授業の中で、問題演習の時間を多めに設定し、生徒1人1人のペースで定着を図ったり、生徒同士で教え合ったりする中で、数学的な見方・考え方をはたらかせ問題を解こうとする態度を育てるよう努めた。また、あたえられた問題文や条件を、身近な事象を数学的に表現し、数学的な見方・考え方をういて問題を解く場面を意図的に設定した結果、「1次関数」や「箱ひげ図」の文章の読み取り問題で、目標値と同等の正答率があった。(3年)
- ・基本的な内容の定着を目指し、多くの問題に取り組みさせた。結果として基礎的な問題の正答率が上がった。(2年)

(2) 課題

- ・多くの領域において未定着の部分が多く、目標値を下回っているものが大半を占めている。とくに「数と式」の領域で目標値を10ポイント以上下回っているものがあり、教科全体の理解の妨げになっていると考えられる。(3年)
- ・計算問題は比較的正答率が区平均と近い値だが、図形と統計の問題では区平均より下回っているのが課題とみられる。(2年)

2 大田区学習効果測定の結果分析

(1) 達成率(経年比較)

	令和6年度結果	令和5年度結果	令和4年度結果
第1学年	基礎は目標値とほぼ同数値であるが、活用の分野に関しては目標値から大きく下回った。	/	/
第2学年	計算や関数は比較的正答しているが、図形と統計では正答率が低かった。	昨年度の結果より、3点以上上回ることができたが、区及び全国平均よりは1～2点下回った。	/
第3学年	「式の計算」「1次関数」「平面図形」「確率」「箱ひげ図」の問題で、目標値と同等の正答率である問題があったが、それ以外では目標値を下回った。特に「連立方程式」の問題では、全ての問題で目標値を10ポイント以上下回った。	「文字式」や、引き続き「平面図形」では目標値と同等であるが、それ以外の項目では、目標値を下回っている。昨年度課題であった、「データの活用」では「データの散らばりと代表値」の項目で目標値を上回る項目もあった。	「平面図形」では、ほとんどの項目で目標値を上回るか同等であった。 「小数・分数の計算」「比と比例・反比例」「データの活用」の多くの項目で、目標値を大きく下回った。

(2) 分析(観点別)

① 第1学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
目標値とほぼ同数値であった。計算方法の習得はできているが、図形に関しては低い。	目標値から大きく下回った。思考・判断・表現を必要とする授業展開の工夫をしていく。	「算数」を苦手とする生徒が多かった。特に図形に関する意欲が低い。

② 第2学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
基礎的な問題に多く取り組ませた結果、正答率が高まったと思われる。	教科の思考力を問われる問題には、苦手意識を感じている生徒が多いと思われる。	区平均より4ポイントほど下回っている。生徒が自主的に学ぼうとする態度の育成が必要だと思われる。

③ 第3学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
「平面図形」や「データの活用」、「確率」の問題で、目標値と同等の問題があったが、その他の分野の問題では、未定着の部分が目立った。とくに「式の計算」「1次関数」の領域では目標値を大きく下回った。	「1次関数」や「箱ひげ図」では目標値と同等の問題もあったが、「連立方程式」ではすべての問題で目標値を下回った。	「1次関数」や「データの活用」では目標値と同等の問題もあったが、「連立方程式」ではすべての問題で目標値を下回った。

3 授業改善のポイント（観点別）

(1) 第1学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
基礎基本の確認となる小テストを今後も継続して取り組ませる。	1学期途中から3～4人の少人数で、「数学的な考え方」を意識した課題解決学習に取り組ませている。	徐々に主体的に取り組む生徒が増えてきているので、改善に期待したい。

(2) 第2学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
基礎的・基本的な内容の定着を徹底して行うことを意識する。教科に対する苦手意識を持っている生徒に対しても、最低限覚えなくてはならない内容は理解させるように指導を続ける。	「数学的な考え方」を用いる問題ができるようになるよう、普段の授業から、今までの知識を活かした問題に取り組ませるよう意識して指導を続ける。	教員主導の授業形態だけでなく、生徒同士で教え合いを行う時間を設けるよう意識する。また、与えられた課題を終わらせるだけでなく、自ら率先して問題に取り組むよう指導を続ける。

(3) 第3学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
学習してから時間の経過している分野ほど、未定着の部分が多くなっているため、1つ1つの分野の学習を進めながら、既習事項をふりかえる場面を意図的に設定していく。	あたえられた問題文や条件を、身近な事象を数学的に表現し、数学的な見方・考え方をを用いて問題を解く場面を意図的に設定していく。	問題演習の時間を多めに設定し、生徒1人1人のペースで定着を図ったり、生徒同士で教え合ったりする中で、数学的な見方・考え方をはたらかせ問題を解こうとする態度を育てる。